

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

ラグビーを契機とした地域活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

小田原市

3 地域再生計画の区域

小田原市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本市は、神奈川県西部に位置する人口約19万4千人（H27年度国勢調査）の市である。首都圏に位置しながら富士箱根伊豆方面に開かれ、交通至便性にも優れており、商業集積地から豊かな自然環境に囲まれた農村地帯まで地域の表情は多様性に富んでいる。そして、小田原城を中心とする城下町・宿場町としての顔や、多数の政財界人が別邸を構えた地としての顔を持つなど、交流人口を獲得するうえで多くの条件に恵まれている。

しかしながら、入込観光客数調査の推移に着目すると、神奈川県全体では近年増加傾向にある中で、本市や本市を含む箱根・湯河原地域では伸びが見られず、小田原城天守閣をリニューアルした平成28年を除き、横ばいの状況が続いている。要因としては、従来型の観光では昨今の旅行者ニーズや旅行スタイルの多様化に対応しきれていないことが挙げられる。多くの観光客を呼び込むためには、歴史・文化という地域資源だけでなく、新たな観光コンテンツが必要となってくる。

○本市の入込観光客数の推移

（単位：千人）

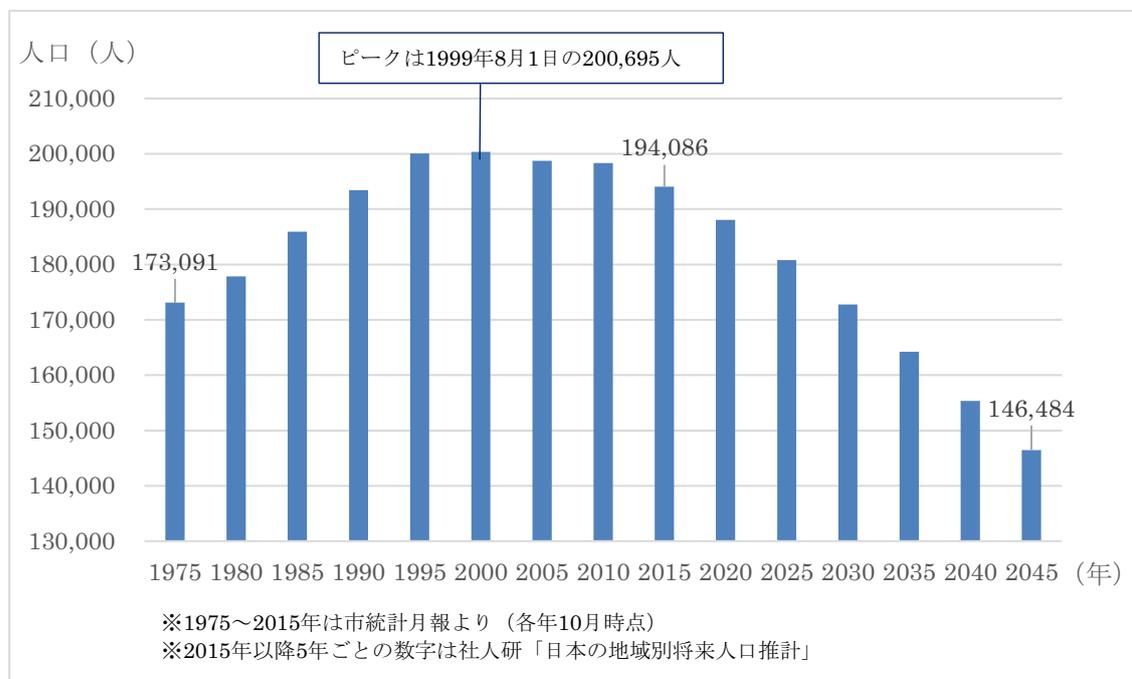
区 分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
延観光客数	4,370	4,650	4,514	4,538	5,943
宿泊客数	230	248	235	226	198
日帰り客数	4,140	4,402	4,280	4,312	5,746

（出典：神奈川県入込観光客調査平成28年度調査結果）

また、本市の人口は1999年の200,695人をピークに年々減少が進み、2015年には194,086人まで減少している。さらに将来の推計によると2045年には

146,484人まで落ち込むと予測されており、他の地方都市同様に地域経済の停滞が懸念されている。

○本市の人口推移



こうした問題の解決に向け、本市では地域活性化策の一つとしてラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした取組について検討を重ねてきた。その中で平成27年度に神奈川県・小田原市・日本ラグビーフットボール協会の3者で、ラグビー日本代表チームの城山陸上競技場での継続的な合宿実施や、ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた取組を協力・連携して行っていくための基本合意書を締結することとなった。

このことをきっかけに、平成28年度に地域の団体や民間企業等と協同で「ラグビー準備委員会」を設立し、ラグビーを契機としたスポーツ振興や、交流人口を拡大し地域活性化につなげるための方策の検討を始めた。また、老朽化の進んだ陸上競技場の改修に併せ、ラグビーやサッカーなど多目的な利用が可能なグラウンドを整備した。

準備委員会では、まず地域のラグビー機運を醸成するためのイベントを定期的で開催すると同時に、日本代表の合宿や各種試合の誘致を進めてきた。その結果、平成29年度に城山陸上競技場で、女子日本代表による合宿や香港代表との国際試合が開催され、1,400名を超える観客が集まったほか、関東大学ラグビーリーグ戦が開催された際には約900名の観客が集まるな

ど、ラグビーコンテンツによる交流人口拡大の可能性が伺えた。

さらに、平成30年4月には委員会の名称を「小田原市ラグビー誘致委員会」に改め、本市と友好都市関係を築いているオーストラリアのノーザンビーチ市との関係から、ラグビーオーストラリア代表チームのキャンプ誘致を積極的に進めた結果、本市がトレーニング拠点となることが決定した。

4-2 地域の課題

市内の人口減少が進み、地域経済の停滞が懸念される中、地域の活性化を図るためには交流人口の拡大が重要である。既存の観光資源で一定数の観光客数は確保しているが伸び悩んでおり、観光入込客数を増加させるための新たな観光資源の創出が課題となっている。

これまでのラグビーに関連した取組により、試合の開催等で一定の集客効果が得られたが、これを一過性のものとせず本市の新たな観光資源として確立していくことが必要である。

4-3 目標

ラグビーを契機とした更なる地域活性化を図っていくため、世紀に一度と言われているラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックの好機を生かし、オーストラリア代表チームによるキャンプを本市に迎え入れる。これを起爆剤として、ラグビーの無関心層に大きなインパクトを与え、興味を持つきっかけを作り、ラグビーコンテンツを核とした、新たな集客を図っていく。

また、オーストラリア代表チームのキャンプ地としてのシティプロモーションや街なかでのパブリックビューイングなどのイベントのほか、経済関連事業などを小田原市ラグビー誘致委員会・小田原市が中心となって展開していくことで、インバウンドも含めた国内外からの交流人口の拡大に繋げていく。

そして、地域一丸となってまちの魅力を高めていくことで、地域にラグビー文化を根付かせ、大会後も持続可能なラグビーによる地域の活性化を図っていく。

【数値目標】

事業	ラグビーオーストラリア代表チームキャンプ受入事業		年月	
	K P I	観光入込客数		外国人観光入込客数※
申請時	5,330 千人		38 千人	H30.3
初年度	6,183 千人		41 千人	H31.3
2 年目	6,387 千人		43 千人	H32.3
3 年目	6,591 千人		45 千人	H33.3

※外国人観光客数を記録している小田原城天守閣の外国人入場者数により計測する。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

ラグビーワールドカップ2019の開催が近づく中、ラグビーを契機とした更なる地域活性化の起爆剤とするため、世界屈指の強豪国であるオーストラリア代表チームのキャンプを受入れるとともに、地域と連携した関連事業を展開し、国内外からの交流人口の拡大と地域のラグビー機運の醸成を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：ラグビーを契機とした地域活性化プロジェクト
(ラグビーオーストラリア代表チームキャンプ受入事業)

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

ラグビーを契機とした更なる地域活性化を図っていくため、世紀に一度と言われているラグビーワールドカップ2019の好機を生かし、オーストラリア代表チームによるキャンプを本市に迎え入れる。これを起爆剤として、ラグビーの無関心層に大きなインパクトを与え、興味を持つきっかけを作り、ラグビーコンテンツを核とした、新たな集客を図っていく。

また、オーストラリア代表チームのキャンプ地としてのシティプロモーションや街なかでのパブリックビューイングなどのイベントのほか、経済関連事業などを小田原市ラグビー誘致委員会・小田原市が中心となって展開していくことで、インバウンドも含めた国内外からの交流人口の拡大に繋げていく。

(事業の内容)

・施設改修事業

安全な練習環境を整えるための施設改修を実施する。

・キャンプ受入事業（小田原市ラグビー誘致委員会実施事業）

オーストラリア代表チームのキャンプを受入れ、チームの練習をサポートする。

・交流事業（小田原市ラグビー誘致委員会実施事業）

代表チームに関連した様々な交流事業を展開することで集客を図るとともに、まちのラグビー機運を高め、大会後も継続して実施できるよう地域への定着を図る。

・シティプロモーション事業（小田原市ラグビー誘致委員会実施事業）

代表選手らに市内観光地の案内、かまぼこやちょうちんといった小田原の文化体験をしてもらい、その様子をSNS等で国内外に発信することで、小田原のシティプロモーションに繋げ、交流人口の拡大を図る。

→各年度の事業の内容

施設改修事業

初年度) 安全な練習環境を確保するため、城山陸上競技場の施設改修を行う。

キャンプ受入事業

初年度) プレキャンプの受入れを行う。

2年目) ワールドカップ事前キャンプの受入れを行う。

交流事業

初年度) 代表戦に合わせて集客力のある施設でパブリックビューイングを実施し、代表選手らによるサイン会やトークショーなどを盛り込んだイベントを開催することで、集客やファン層の拡大に繋げる。

また、地元商店街と連携した街なかでのオーギーフェアやオーストラリア物産展を開催し、継続的な取組に繋げていく。

2年目) 継続

シティプロモーション事業

初年度) 選手らに小田原の観光地案内やかまぼこ・小田原ちょうちん作りといった文化体験してもらい、観光スポットや文化情報をSNS等で国内外に発信することで、地域のPRを図る。

2年目) 継続

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市総合戦略においては、8つの重点テーマの一つ、「県西地域活性化プロジェクトに連動した取組」の中に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2019年のラグビーワールドカップの機会を捉えたスポーツ・文化振興と経済活性化の両輪の取組を位置付けており、「ラグビーを契機とした地域活性化プロジェクト」は、これらを総合的に実施する事業である。

また、総合戦略の基本目標として、観光入込客数（現状451万人→H31 600万人）、観光案内所利用者数（現状88,218人→H31 92,500人）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	ラグビーオーストラリア代表チームキャンプ受入事業		年月
	KPI	外国人観光入込客数※	
申請時	5,330千人	38千人	H30.3
初年度	6,183千人	41千人	H31.3
2年目	6,387千人	43千人	H32.3

※外国人観光客数を記録している小田原城天守閣の外国人入場者数により計測する。

(6) 事業費

(単位：千円)

ラグビーオーストラリア代表チーム キャンプ受入事業	年度	H30	H31	計
		事業費計	21,500	10,000
区分	工事請負費	7,500	0	7,500
	負担金、補助金及び交付金※	14,000	10,000	24,000

※小田原市ラグビー誘致委員会へ負担金を支出する。

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

年度	H30	H31	計
株式会社ミクニ	3,000	—	3,000
計	3,000	—	3,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業のKPIである「観光入込客数」及び「外国人観光入込客数」を公表し、本市総合戦略有識者会議により、実績を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良する。

(評価の時期・内容)

毎年度末の実績を、5月に開催する有識者会議による検証を行い、翌年度以降の取組に反映する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに小田原市ホームページで公表する。

(9) 事業期間

平成30年7月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) ラグビー日本代表合宿誘致事業

事業概要：神奈川県・小田原市・日本ラグビーフットボール協会の3者で結んだ協定に基づき、日本代表の合宿に向けた誘致活動に取り組む。

実施主体：小田原市・小田原市ラグビー誘致委員会

事業期間：平成27年度～

(2) ラグビーの普及啓発事業

① イベント事業

事業概要：ラグビーを普及させるため、子供たちを対象としたラグビー体験会のほか、城址公園等でのストリートラグビー大会、ラグビー日本代表観戦バスツアー、著名人を招いた講演会など、市民がラグビーに触れる機会を提供し、機運の醸成を図る。

実施主体：小田原市ラグビー誘致委員会

事業期間：平成 28 年度～

② 各種試合・大会誘致活動

事業概要：城山陸上競技場でのラグビー利用を進めるため、大学ラグビーや女子ラグビーの試合や大会を誘致し、その広報・PR活動を支援することで市民の目に触れる機会を増やす。

実施主体：小田原市ラグビー誘致委員会

事業期間：平成 29 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIである「観光入込客数」及び「外国人観光入込客数」を公表し、本市総合戦略有識者会議により、実績を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度末の実績を、5月に開催する有識者会議による検証を行い、翌年度以降の取組に反映する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに小田原市ホームページで公表する。